



平成30年5月25日

各 位

上場会社名 株式会社創通
 代表者 代表取締役社長 出原 隆史
 (コード番号 3711)
 問合せ先責任者 代表取締役社長 出原 隆史
 (TEL 03-6386-0311)

業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成30年5月25日開催の取締役会において、最近の業績動向等を踏まえ、平成29年10月6日に公表いたしました平成30年8月期(平成29年9月1日～平成30年8月31日)の業績予想及び1株当たり配当予想について、下記の通り修正することを決議しましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成30年8月期通期連結業績予想数値の修正(平成29年9月1日～平成30年8月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	21,000	3,120	3,130	2,100	143.30
今回修正予想(B)	17,400	2,540	2,620	1,800	122.83
増減額(B-A)	△3,600	△580	△510	△300	
増減率(%)	△17.1	△18.6	△16.3	△14.3	
(ご参考)前期実績 (平成29年8月期)	19,565	3,025	2,968	2,042	139.28

平成30年8月期通期個別業績予想数値の修正(平成29年9月1日～平成30年8月31日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	19,200	2,630	1,800	122.83
今回修正予想(B)	15,700	2,110	1,500	102.36
増減額(B-A)	△3,500	△520	△300	
増減率(%)	△18.2	△19.8	△16.7	
(ご参考)前期実績 (平成29年8月期)	17,903	2,481	1,776	121.12

修正の理由

中核であるアニメ事業の事業環境への対応の遅れ、見通しの甘さが根本的な要因であります。アニメ事業においては、複数社がリスクヘッジを行いながら作品ごとに出資を行う「製作委員会方式」による作品づくりの投資効率が悪化し、また当該方式によらないスキームの作品づくりが顕著となっております。そのような事業環境の中、従来通りの製作委員会組成に業務が偏重し、そのため計画通りに委員会組成が実現せず、メディア事業におけるプロデュース作品の制作受託収入・放送事業収入が期初の予想を下回り、またライセンス事業における二次利用による収入が期初の予想を下回っております。

この結果、上記の通り連結業績及び個別業績においても売上高が期初の予想を下回る見通しであります。また売上高の減少に伴い、営業利益、経常利益、当期純利益についてもそれぞれ期初の予想を下回る見通しであります。

次期以降に向けては、従来方式によらない新しいスキームによるアニメ作品づくりの比重を高め、多様な回収方法を創出することでアニメ事業の投資効率を向上させ、業績の回復を図ってまいります。

● 配当予想の修正について

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
前回予想 (平成29年10月6日発表)	—	15.00	—	25.00	40.00
今回修正予想	—	—	—	22.00	37.00
当期実績	—	15.00	—		
前期実績 (平成29年8月期)	—	15.00	—	23.00	38.00

修正の理由

当社は中期的な業績見通しやそれに基づく配当性向を総合的に勘案し、安定的な普通配当を継続するとともに、各期の業績等を考慮した特別配当により株主の皆様への還元に努めることを基本方針としております。尚、配当性向の基準に関して30%を目標とすることとしております。

上記の基本方針並びに本日発表いたしました「通期業績予想の修正」を踏まえ、誠に遺憾ながら、平成30年8月期の期末配当金について前回予想の1株当たり25円(普通配当15円00銭、特別配当10円00銭)から3円減配の1株当たり22円(普通配当15円00銭、特別配当7円00銭)に修正することといたしました。

尚、本修正案は、平成30年11月に開催予定の定時株主総会の決議を経て実施する予定であります。

以上